



「VOICE 農業の現場から」は、京都府福知山市三和町で農業を営む、農業生産法人(株)京都府天田郡みわ・ダッシュ村が、日本の食の安全と農業の発展を願い、農業の現場・農政の矛盾・国民への投げかけを、メディアの皆様が発信するものです。食料自給率が低迷する中、農業改革は日本にとって必至です。メディアの皆様には様々な角度から農業を見ていただきたいとの思いから、情報提供をさせていただきます。

## VOL.15 安全安心な食糧を確保する方法

ここ数年、輸入食品・輸入農産物ではなく、より安全安心な国産食品・農産物を手にする消費者が増えている。消費者の食の安全・安心への関心は急速に高まっている。

福島第一原子力発電所事故で、大量の放射性物質が空気中に放出され、「食の安全・安心」を求める消費者意識は急激に高まった。

多くの消費者の声を代弁すると「私たちは今年、そして今後どのように安全で安心な米や野菜を入手すればよいのか？」ということだ。

漠然とした不安は、放射性物質の影響がどれほど広範囲でどれほど深刻であるか、客観的なデータに基づいた明快で信頼できる説明が不十分なため、国民はただ心配するしかない。その心配は何かの拍子に騒動に変化することさえ考えられる。そこで今回のVOICEでは、消費者が安全安心な食糧を確保する方法を考えたい。

### ▼消費者の信頼回復への取り組みが急務

収穫の秋、各地の田んぼで稲刈りが行われている。ところが今年米どころである福島県での原発事故のため、その影響を消費者は懸念している。その懸念とは、「今、スーパーで売っている米は大丈夫なのか?」「今年の米は足りるのか?」

野菜についても同じことが言える。

消費者の不安を取り除くには、客観データに基づいた明確な説明に加え、検査体制・偽装防止体制を確立し、流通している食品・食材に対する消費者の信頼を取り戻すことが必要である。

### ▼消費者ができるリスクヘッジ

検査体制・偽装防止体制は、一朝一夕で確立できるものではない。すでに産地偽装の事実も報告されている。偽装行為はよくないことだが、それを生み出しているのは政治対応の遅延と言えるだろう。早急な対応が急務である。

さて、消費者としてできることはないだろうか?

もっとも確実な方法は、消費者が信頼を持てる生産者から直接購入することだ。近年は生産者もインターネットで積極的に自らの考えや生産に対する姿勢を発表している。中には日々の作業内容を毎日 BLOG で公表するほど熱心な生産者もいる。そういった生産者発の情報をしっかりと読み、自分で選択・判断するのである。

生産者から直接購入する方法は、現状考えられる中ではもっとも確実に、安全安心な農作物を入手する方法である。それに気づく消費者も多く、みわ・ダッシュ村の米の年間定期購入の会には、早場米の検査結果が発表された頃から入会希望者が急激に増加している。

▼セミナー『子や孫に安心できる米や野菜を食べさせたい!』

みわ・ダッシュ村では、消費者の不安な声にお応えすべく、東京及び京都で『子や孫に安心できる米や野菜を食べさせたい!』をテーマとしたセミナーを開催する。

日程は、東京：9/25(日)・10/15(土)、京都：10/2(日)、各会場とも、受付開始9時30分。10時セミナー開始、12時終了予定。

難しいと言われる完全無農薬・無化学肥料・有機栽培の農業になぜ当社がこだわるのか?農薬をはじめとする健康リスクを含まない食べ物を消費者が入手するにはどうすればよいか?など、今消費者が抱える不安・疑問を解決する。詳細：「みわ・ダッシュ村」で検索

## 耕作放棄農地問題に取り組む、みわ・ダッシュ村

当社は、限界集落を有する過疎地の三和町に点在する耕作放棄農地を購入して開墾し、優良化した農地で完全無農薬有機で農業をしております。農業の現場にいる者として、現場だからこそ見える、農政の矛盾・農業従事者からの提案を発信し、日本の農業の振興につなげていきたいと考えております。

■お問合せ先：農業生産法人・株式会社京都府天田郡みわ・ダッシュ村(略称・みわ・ダッシュ村)

：代表取締役村長清水三雄(しみずみつお)

■住所(京都四条オフィス)：〒600-8412京都市下京区烏丸綾小路下がる西側 四条地下鉄ビル6F

■TEL：075-954-6666(代表取締役村長 清水三雄直通)

みわ・ダッシュ村

検索